

# pen

with New Attitude

**3/15**  
2010 No.265  
特別定価 **650**  
yen

2010年・春夏ファッション特大号

ギリシャ・サントトリーニ島ロケ

軽やかな服、  
上質な服。



とじ込み付録  
2010年版  
欲しいは、  
これ。



## エレガントに駆け抜ける、高貴な味わいのバーボン

久しぶりにバーボンを飲んで思い出したのは、バブル時代の金にあかせたおバカな遊びのこと。賭け金1人10万円で競馬場に繰り出した。一日遊んでなくなったら終了という、今思えばもったいないこと限らないバブル・ルールで集まったメンバール数人。

フランスのロンシャンやシャンティイのグランプリレース、イングリランドのロイヤル・アスコットばりに、女性はお帽子とカクテルドレス、男性もタイ&ジャケットの正装でキメるのもルール。赤青鉛筆をにぎりしめたおっちゃんたちが、すれ違う我々の場違いな姿を見て目を赤青……ではなく白黒させる。それを横目にガラス張りのスペシャルボックスに入り、シャンパンとチーズ片手にいざ勝負。素人集団らしく、ええいつ、こんなもの勘しかないつと何レース目かにでた一発勝負が、当たった。どうもあのパドックで見た三歳牝馬栗毛ちゃんの腿の締まりがい

いと思っただよねえ。ここから最終レースまで賭け、飲み、食い、泣き、笑いで私の10万円は40万円に。ヒヤッホー。見事なビギナーズラック。戦利金での祝杯はバーボンウイスキーの「ブラントン」だ。当時はなんてったってバーボンブーム。なかでも鳴り物入りで輸入され始めたブラントンは、原料の良さ、樽熟成の長さ、一本ずつナンバリングされたボトルに手書きのラベル、まるでコニャックのようなエレガントな味わいなどなど、なにもかもがそれまでのバーボンにはないキャッチ満載の商品だった。とはいえ、その日ブラントンを選んだのはキ

ャップがサラブレッドに跨った騎手のフィギュアだったから。ただそれだけ。ダービーのビギナーズラックを祝うのに、これほどもってこいの銘柄はない。どうにも気になっていたボトルを、この機に乗じて一本丸ごと注文したってわけ。

味のよし悪しを語るほど経験がなかったあの頃だけど、国産ウイスキーやお手ごろ洋酒とは「さすがに一味違う」と思わせる味わいだった。あつという間に一本空いたのはビギナーズラックに浮かれていただけではなかったことを、久々に飲んで思い出した次第。四半世紀前のお話だ。

# 今宵も一杯

81

杯目 文・友田晶子

### ブラントン Blanton's

原産国 アメリカ

ブラントンのトレードマークである、キャップに鎮座するジョッキーのフィギュアは全8種類。馬の足元に刻印された「BLANTON'S」のBからSまでのアルファベットが、見分け方のポイント。Nのみ2タイプあり。



Photograph by Atsushi Sano

### 「ブラントン」が飲める店

#### ShotBar BOURBON

ショットバー フルボン

●東京都中央区銀座8-4-4 村喜五号館ビル B1F  
☎03-3575-1239 営18時～早朝4時(月～金)  
18時～深夜3時(土) 休日  
JR・東京メトロ新橋駅から徒歩5分  
<http://ameblo.jp/shotbarbourbon>

